

一般質問



高橋 伸明 議員(自・未)

こども110ばんの家
について

①こども110ばんの家について
⑦子どもたちへの周知が進んでいないと思うが、ポスターの掲示位置を決めるなど、掲示方法に一定の約束事を設けては、④交通標識のような形で、近くにある旨の表記をしては。⑤ポスターのサイズを大きくし、絵柄はもう少しインパクトのあるものに変更しては。⑥子どもたち自身はどこにあるかを把握するため、市民科の授業等に組み込み認知度を上げることが大切では。②商店街に今まで以上のお願いをして、こども110ばんの家の参加店になっていただけるようお願いしては。

地域振興部長 ①ア見やすく、子どもの目線の高さに張るようお願いしている。①道路標識等と同様の掲示方法は、道路交通法等との関係などから困難だ。②ウサイズは協力家庭等で張りやすいようA4サイズとしている。また、デザインは子どもたちが確実に認識できるように区の防犯マスコット等を配置している。①エ2年生の市民科学習でこども110ばんの家や店等に入り、大人に助けを求めることも指導している。②防犯イベントでのPRや警察、学校、PTAを通じて加家庭、店舗の拡大を図るなど、地域全体による見守りを進めていく。

スクエア荏原について

①立地条件などから、スクエア荏原への来場者の多くが自転車である。そのため、駐輪できない自転車が路上に見受けられるが、自転車の路上駐輪対策について、所見を。文化スポーツ振興部長 ①来館者が多い催しの際は、事業主催者が人を配置し、駐輪場への誘導を行っている。広場や公園利用者については警備員が日に4回巡回し、駐輪場の利用を声かけしている。

空き家対策について

①適切に管理されていない空き家等が、防災や衛生など地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしているが、基本的には空き家の所有者が自分で財産を守り、維持することが大切だ。所有者へ固定資産税など行政の動きを正確に伝え、適正な空き家の管理を伝えていくことが重要だと考えるが、所見を。区長 ①空き家の適正管理や区の支援策等を記したパンフレットを作成し、空き家の所有者へ配布した。今後ともホームページで情報発信するとともに、所有者への意識啓発を強力に図っていく。

防災について

①品川区は細い路地に木造住宅が密集している地域が多く、地震が発生した際、火災の発生が一番心配だ。非常の場合には、男女問わず自分たちの周りの初期消火は自分たちの手で行うという体制づくりが急務ではないかと思うが、見解を。②被災された方からは、震災で一番困ったのはトイレとの声がある。既存の下水道を利用したマンホールトイレシステムや携帯トイレ等、様々な対応が考えられるが、区はどのような対応を考えているのか。

災害対策担当部長 ①消防署や消防団等に協力していただき、地区単位だけでなく、避難所単位、町会単位でのスタンバイ等の操作訓練を実施している。今後は、しながわ防災体験館や防災学校のカリキュラムの活用など、引き続き地域における初期消火体制の強化に取り組んでいく。

②災害時には、まず避難所の耐震性が完了したトイレを利用していただき、使用できない場合は、使い捨ての簡易型トイレを使用するよう配備している。それでも不足するような場合は、避難所に配備している便槽式仮設トイレを使用する。道路上の下水用のマンホールは、都下水道局が指定するものを便槽にたまった尿処理に使用する。国のガイドラインに記載されているマンホールトイレシステムについては、今後、区立公園等に設置する際の参考としていく。



木村けんじ 議員(民・無)

元気な高齢者づくりのための
スポーツの活用について

①スポーツを楽しんでいる高齢者の割合は。②高齢者が元気であるためには、積極的に外出してもらうことが大事だが、高齢者とスポーツの施策について、今後の計画は。③1人でも多くの元気な高齢者づくりには、行政だけではなく、地域でのスポーツや趣味活動など、地域で考え、地域で活動することが大事だ。これからの行政と地域のつながりについて、見解を。④高齢者の健康づくりは、スポーツや趣味だけでなく、働くという方法もある。シルバー人材センターの多くの会員は、就業そのものが健康維持に役立つと考えているようだが、健康維持と就業の関係に対する考えは。

シルバー人材センターの貢献
と活動のあり方について

①ここ数年、シルバー人材センターの会員数が伸び悩んでいる要因はどこにあるのか。②区が理想とする会員数はどのくらいか。③国が行おうとしているシルバー人材センター機能強化の動きに対する、区の見解を。④シルバー人材センターでの就業自体が健康状態にプラスの効果があると多くの会員が認識している。就業と健康維持が結びつくのであれば、就業時間を少しでも増やすことは可能なのでは。地域振興部長 ①区の60歳以上の高齢者人口に占める入会率は2.6%、全国平均は1.8%であり、高入会率を維持している。会員数の伸び悩みの要因は、高齢者雇用安定法による継続雇用やライフスタイルの多様化によるものと考えられる。②シルバー人材センターは27年度の会員目標を2千700人に定めている。③国の

動向を注視しつつ、品川区シルバー人材センターが高齢者の社会参加や生きがいづくり等の役割を果たしていただけるよう支援を行っていく。④高齢者の就業は健康維持に一定の効果があることから、多くの会員が仕事に携われるよう努めていると聞いている。

2020年に向け、増え続ける訪日外国人と民泊について

①訪日外国人の増加による宿泊施設の不足に対し、区でも民泊条例の制度を検討しているというが、なぜ旧東海道品川宿の地域だけに限定しているのか。①空き家を宿泊施設として活用し、品川らしいおもてなしで迎えては。②民泊には旅館業法の許可が必要だが、無許可の違反営業に対する調査したのか。⑤騒音など地域住民とのトラブル等の問題で、条例化に多くの自治体が慎重になっている。国から3月に出される中間まとめを待つこと等で、区にどのようなメリットがあるのか。企画部長 ①羽田空港やオリンピック・パラリンピック競技会場に近く、営業可能な事業者が見込める地域として、旧東海道エリアを想定した。他地域への展開も含め、施設数等は、事業者の提案なども踏まえ整理していく。①品川区ならではの民泊について、検討を進めていく。②日常の相談を通じて、ケースに応じた適切な対応をしている。⑤複数の省庁で民泊ルールの検討が進められており、その動向を見きわめ、区の民泊のスキームを検討していく。



しながわ防災体験館の体験コーナー(品川区防災センター2階)